

2022年度 行岡保健衛生学園 行岡医学技術専門学校 学校評価

○実施学科

看護第1学科

歯科衛生科

○実施時期

自己点検自己評価：2023年5月

学校関係者評価：2023年6月

○学校評価の方針

自己評価結果の公表方法		
<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>各学科「学校法人行岡保健衛生学園自己評価表」に基づいて、自己評価を実施している。評価項目については、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局：平成25年3月）を参照して定めている。</p> <p>なお、自己評価表については、学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」で公表している。</p>		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<p>各学科、「学校法人行岡保健衛生学園自己評価表」に基づいて、自己点検自己評価を実施している。評価項目については、「教育理念・目標」、「学校運営」、「教育活動」、「学習成果」、「学生支援」、「教育環境」、「学生の受け入れ状況」、「法令等の遵守」、「社会貢献・地域貢献」、「法人運営・財務」の10項目である。</p> <p>また、評価委員会については、各学科の専門分野における業界関係者（就職先・実習先施設、業界団体、職能団体職員）、学校運営に関する専門家（学校マネジメント）、卒業生より人選している。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
看護専門学校副学校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (任期更新)	学校運営のマネジメント 専門家
医療機関実習施設看護部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日 (任期更新)	業界関係者（産業界、就職先、実習先）

歯科医院	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日 (任期更新)	業界関係者 (産業界、卒業生)
医療機関	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日 (任期更新)	業界関係者 (産業界、就職先、実習先)
学校関係者評価結果の公表方法		
<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」で公表している。</p> <p>行岡医学技術専門学校ホームページ「情報公開」</p> <p>http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</p>		

2022年度 行岡保健衛生学園 自己評価表

学校名：行岡医学技術専門学校

学科名：看護第1学科

記入者：吉田 菊江（教職員14名）

1. 学校の教育目標 学生便覧・授業計画 P2

1. 人間を成長・発達・変化している身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）に統合した存在として幅広く理解する能力を養う。
2. 対象を中心とした看護を提供するために、看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。
3. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
5. 健康の保持・増進・疾病の予防及び回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供する基礎的能力を養う。
7. 専門職業人として地域の健康問題に目を向け、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質向上を図る基礎的能力を養う。

2. 学科の教育目標

授業計画各科目 P9～P16

実習要項の各看護学実習 P55・P67・P81・P90・P111・P117・P128・P141・P151

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	4 ③ 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業 界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

○保護者への周知が弱い

② 今後の改善方策

・保護者会の実施（入学前はできているが中間の実施が必要。学事計画を周知し協力を求める）

○保護者案内（時期・内容・学年別に標準系を準備する）

国家試験対策への協力依頼（5月・8月・11月）

1・2年生 実習前（1年生：6月・12月、2年生：7月・12月）

・学園 HP の充実（保護者向けページ）

・学校理念・人材育成などを YouTube など積極的に紹介していく

③根拠資料

・学生便覧学則 P2、授業計画 P2～P7、実習要項 P1、募集パンフレット

・保護者会、保護者宛ての国家試験支援文書・コロナ禍における連絡文書（一部）

YouTube、HP

④特記事項

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・情報システム化移行期である。
- ・教員間で実施業務に差がある。

② 今後の改善方策

- 教育活動を HP に公開する。
- 情報システム使用の定着。
- 教員間のコミュニケーション、業務の可視化と調整の継続

③根拠資料

- ・学則（組織に関する規程）
- ・学生便覧
- ・オープンキャンパス・保護者懇談会、募集要項で「国家試験合格率、入試倍率、就職率、実習病院」の情報を公開。
- ・R4 年度より infoClipper・さくら連絡網の導入、R5 年度入学生より電子教科書導入。

④特記事項

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、就業年限に対応した教育到達レベルが明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 ③ 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・教員の人員確保が難しい。指定規則定員は満たしているが、実習施設が50施設弱あるので余裕がない。
 - ・余裕がないため、能力開発のための研修受講が少ない。(出張扱い、交通費の補助がある)
 - ・再試験・追試験の案内が適切でない場合がある。
- 母体病院の実習指導者が育っていない。
- 授業参観に気軽に参加しにくい。
- 国家試験合格率を全国合格率レベルから100%にしたい。

② 今後の改善方策

- 教員の能力開発のための研修(日本看護学校協議会、大阪府看護学校協議会、進研アドなど)を実施しているが、受講者に偏りがあるので、教員別に年間計画としてすすめる。
- ・公務研修は伝達講習を実施しているが、さらに充実させる。
 - ・教員の計画的確保(健康で継続勤務できる人、教育経験がある人)
 - ・試験実施マニュアルを作成したので、基本どおりに運用していく。
- 病院と学校の連携を密にし、実習指導者の育成に参画する。
- ・意見をいただき、双方向に授業展開し、学生の満足度を上げる。
- 国家試験合格率を上げるためには、1年次からの学校としての計画された取り組みを実施していく。低学力者を1年次から支援していく。ラダーを作成、国家試験対策担当者を専任にし、組織を手厚くする。

③ 根拠資料

- ・授業計画(教育目標・学年別教育目標・科目構造図・分野別目標など)
- ・実習要項
- ・学生による講義・実習評価
- ・教員の研修受講状況
- ・2022年度教員一覧表
- ・教員の担当・組織一覧

④ 特記事項

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び計画を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 課題

- 母体病院へ就職者が少ない。学校方針と学生の希望先とのバランスの取り方に苦労がある。
- 成績下位 10%の学生の対策。
 - ・卒業生の社会的活動の把握が弱い。
 - ・2年生は1・2月の実習後の退学、3年生は健康上の理由で休学、退学がある。コロナ禍が落ち着き、実習開始に伴い兆候があらわれてきた。

② 今後の改善方策

- ・母体病院の看護師との協力により、選ばれる病院となるように。
- 教員全体が就職支援をするための情報交換を教務会議で行う。
 - ・現在実施している、母校での卒後フォローアップ研修やホームカミングデイを継続する。実習施設の看護部からの情報交換でタイムリーな動向をつかみ、支援する。
- 卒業生とのコンタクトツールを考える。
- 3年間の国家試験対策を学生に周知し、それに基づいて実施する。下位学生の個別指導を長期休暇中に実施する。

③ 根拠資料

- ・就職率、国家試験合格率、退学率
- ・卒後のフォローアップ研修、ホームカミングデイ
- ・スクールカウンセリングに関する事項、国家試験対策

④ 特記事項

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・カウンセラーの常設が少ない。教員の面接にあてる時間の確保が困難。支援時間が足りない。
- ・健康手帳がうまく面接に活用されていない。
- 学生配慮が行き過ぎ、学生の自律性を失っていることもある。(点数開示や締め切り遅れ対応など、教員の対応がまちまちである)

② 今後の改善方策

- ・カウンセラー室が、R5年度から毎週1回、長柄校→本庄校に常設となる。
- ・健康手帳も面接時身体面の客観的指標として活用していく。
- 学生の自律心を刺激し、利己的でなく、自分の行動は自分で責任を負う指導をする。

③ 根拠資料

- ・健康管理規定
- ・就職指導年間計画表
- ・学年別面接計画
- ・カウンセリング実施状況

④ 特記事項

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・Wi-Fi 環境がない。
- ・南海トラフなどの自然災害を見据えた防災体制の整備

② 今後の改善方策

- ・Wi-Fi 環境の整備
- 実践的な防災体制の整備
学生の学内における物資のストックについて指導する。
- 非常階段の使用状況の確認。

③ 根拠資料

- ・学内外の実習施設の教育体制の整備 : 実習要項
- ・防火訓練実施、大阪 880 万人の訓練に参加
- ・在宅訪問看護ステーションや実習施設のインターンシップへの参加状況

④ 特記事項

- ・学内外の実習施設について、十分な教育体制の整備
実習施設は大阪府に申請し、実地調査後承認を受けている。(指導要領で整備すべく、実習指導者の要件や図書の実備、更衣室、討議室、必要備品の整備など)
- ・就職活動と関連させて、在宅訪問看護ステーションや実習病院等のインターンシップに参加している)

(7) 学生の受入れ状況

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

○18歳人口の減少。年々応募者の減少。

- ・HPはお知らせが多く、学校行事や教育風景が少ない。

② 今後の改善方策

- ・OC、フェスタを合計16回実施（学生のボランティア協力、学校説明・見学、実習室体験、保護者説明など評価修正しながら進める）
- ・指定校推薦校を24校継続
- ・高校訪問継続（面倒見の良いところのPR、学校・生活紹介一覧・在校生レターの更新）40校
- ・ブログ（毎週水曜日にアップ）、Instagramの更新、YouTube年1回の更新
- ・教育状況、行事などを載せていく
- ・教員全員がInstagramなどの動画をアップロードできるようにする。一定期間は担当制とする。

③ 根拠資料

- ・指定校推薦導入で、確実に現役生を確保する。

指定校推薦応募：R2年度入試は7校、R4年度入試は9校、R5年度は6校の応募あり

- ・公募推薦（R3年度入試57名、R4年度入試35名、R5年度入試は34名）
- ・自己推薦（R3年度入試11名、R4年度入試3名、R5年度入試は5名）
- ・募集要項（OC、ナイトOC、メディカルフェスタの予定）

- ・応募状況倍率（受験生÷入学生）

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
倍率	5.2倍	4.1倍	3.7倍	5.9倍	4.2倍	3.7倍

- ・OC/メディカルフェスタ応募状況（人）

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
OC	329	329	297（予約制）	256（予約制）	363（予約制）
メディフェス	305（3回）	123（2回）	195（1回）	169（3回）	115（3回）

④特記事項

(8) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 3 ② 1

① 課題

R3年度は公表が遅れた。

② 今後の改善方策

R4年度は関係者評価の実施、HPへの公表を速やかに行う。

③根拠資料

R2年度自己点検自己評価、関係者評価は速やかに公開を実施した。

R3年度は評価の実施は行なえたが、公表までに時間がかかった。

④特記事項

- ・毎年保助看法の14条報告の実施、保助看法に逸脱していないかの確認がある
(カリキュラムの実施状況や教員の要件、入学者数・卒業者数、実習施設の確認など)

(9) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

①課題

- ・継続した学校、学生への地域貢献が少ない。

②今後の改善方策

- ・地域に対する公開講座やボランティア、高校からの出前授業などに取り組む。
- ボランティアチームを作る（学校・行岡病院・通学路などの清掃ほか。季節休暇前、看護の日に上記取り組みや健康測定などを校舎1階フロアで実施していく）
- 地域住民向けの活動を取り入れていく。（大淀や北区北老人福祉センターの人に声をかけ、同意がある人に、1年生の血圧測定（学内演習）などに患者（SP）になっていただく）

③根拠資料

④特記事項

- ・認知サポーター場所として認定された。授業で養成講座を取り入れた。
- ・OCへの学生応援、学生の保育園の運動会への参加や老人ホーム・デイケアなどの夏祭り参加、行岡バザーの協力・参加を行っている。（コロナ禍で中止）
- ・行岡病院の卒後教育の一環として、「人工呼吸蘇生人形」「AED」採血練習用「血管くん」を貸し出し、ご活用いただいている。
- ・当校歯科衛生科の講義を実施している。
- ・コロナ禍において出前授業を実施できず。（コロナ禍により中止）
応募のある学校には出向く。
- ・実習病院との年1回の講演会（コロナ禍で中止）や指導者会（年数回）などを通して交流を深めている。
- ・1階ホールに情報掲示板を作り、地域のボランティア情報を提供している。

2022年度 学校法人行岡保健衛生学園 行岡医学技術専門学校 関係者評価

実施日：2023年6月19日（月）10：00～12：30

場所：行岡医学技術専門学校

学校名：行岡医学技術専門学校

学科名：看護第1学科

評価者：①池田氏

医療機関 実習施設 看護部長

②中川氏

看護専門学校 副学校長

【講評】①

学校法人行岡保健衛生学園 看護第1学科の関係者評価にあたり、学校の理念・教育目標など、学生に伝わりやすい内容で適切に運営されていることがわかった。

多様な学生がいる中で、教員の皆様の教育への取り組みがとても素晴らしい。また、ご苦労もあるかとも思う。実習施設として関わっている中で、学生の実習の様子から、先生方のご指導が行き届いていることが察せられる。学生への思慮深い教育であると心より思う。

今後も実習施設として貴校との連携をとり、サポートさせていただきたいと思う。

【講評】②

①教育理念・目的・人材育成像に向かって各学年の目標を立て、教員が各々の役割を明確にし、教育体制を整えられていることを評価する。

②教員各々キャリアアップに予算立てをされ、更なる向上に努められたい。

③卒業後のフォローをされていること、実習施設とのタイアップをされていることは職業人を育成するために必要であり、継続されたい。

④18歳人口の減少や大学の新設などにより、学生募集はこれからも大変な状況ですが、学生確保のため、お互い頑張っていきたい。

以上

2022年度 行岡保健衛生学園 自己評価表

学校名：行岡医学技術専門学校

学科名：歯科衛生科

記入者：鈴木 亜紀

1. 学校の教育目標

本校の教育理念の「協同」から発展して、「適応力豊かな医療人の育成」

2. 学科の教育目標

「適応力豊かな医療人」を目指すうえで学生には、科の教育目標は「成し遂げる力」を養うことである。

「成し遂げる力」を達成するためには

- ・ 歯科衛生士になるという強い意思をもつこと
- ・ 相手を思いやり、寄り添う気持ちをもつこと
- ・ 心身ともに健康であること

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業 界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

①課題

学校の理念、目的等は入学前のオリエンテーション（学生・保護者説明会）にて周知しているが、保護者への学校の理念・目標等の周知が不十分である。

②今後の改善方策

複数回の保護者説明会（入試前・入試後・臨床実習前）で伝えていく。

③根拠資料

④特記事項

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

教員は毎日午前と午後の学生点呼、非常勤講師への講義資料印刷準備ならびに担当科目講義など業務は多岐におよんでいる。そのため業務の効率化が図られにくい。
情報システムについて十分に使いこなせていない。

②今後の改善方策

雑務のシステム化を整備し、情報システムを積極的に活用していく。

③根拠資料

④特記事項

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	4 ③ 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、就業年限に対応した教育到達レベルが明確にされているか	4 ③ 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 ② 1

①課題

- ・非常勤のレジュメ、出欠確認など、教務事務業務が多くあり、対応に追われる。
(実習先訪問など学校を離れるため)

②今後の改善方策

- ・多量の資料はネットで学生と共有など柔軟な対応を行っていきたい。

③根拠資料

④特記事項

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び計画を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

- ・成績不振の学生が今年度は特にみられた。
- ・国家試験合格率の低下

②今後の改善方策

- ・国家試験対策を3年生ではなく2年から早期介入（対策アプリの活用）

③根拠

④特記事項

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

①課題

- ・卒業生への卒後研修が実施できていない。
昨年度も同じく実施できていない。卒業生のニーズを把握するところから実施する必要があると考える。

②今後の改善方策

- ・卒業生のメーリングリストを作成し勉強会などの情報を提供する
- ・卒業生への研修（時代のニーズに即した）を計画していきたい

③根拠資料

④特記事項

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

①課題

経年劣化により使用制限のある教育教材がある。

②今後の改善方策

新規の教育教材を購入する

③根拠資料

④特記事項

(7) 学生の受入れ状況

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

①課題

- ・学生募集活動は適正に行われていると考える。しかし、コロナ渦で提供できる活動に制限があった。

②今後の改善方策

- ・現行通りの体験型を充実させていく。
- ・在校生にも募集活動に参加させ、生の声を届ける。

③根拠資料

④特記事項

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 ③ 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 ② 1

①課題

学生募集が定員に満たない

②今後の改善方策

在校生の満足度を高め、オープンキャンパス等の充実を図る

③根拠資料

④特記事項

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 ② 1
・自己評価結果を公開しているか	4 3 ② 1

①課題

自己評価結果について把握できていない

②今後の改善方策

自己評価を把握し次につなげる。

③根拠資料

④特記事項

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや適切・・・2、不適切・・・1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

①課題

- ・保育園、小学校への歯の衛生週間指導の充実

②今後の改善方策

地域貢献を実施していれば連携を図り、支援できる体制を考えていく

③根拠資料

④特記事項

2022年度 学校法人 行岡保健衛生学園 学校関係者評価

実施日 ①2023年5月25日（木曜日）10時00分～12時30分

②2023年5月27日（金曜日）10時00分～12時

場所 行岡医学技術専門学校 6階 演習室

学校名： 行岡医学技術専門学校

学科名： 歯科衛生科

評価者： ①田村まゆみ氏（卒業生 41期生）

旭ヶ丘ホリクリニック（臨床実習施設）

②篠川麻菜氏（卒業生 42期生）

行岡病院（臨床実習施設）

講評

2名の評価者ともに本科の教育ならびに取り組みに対して、適切であると評価して頂いた。その中でも評価基準が「やや適切」、「不適切」と評価された項目から課題と今後の対策についてまとめる。

【課題・今後の対策】

*教育活動

【課題】

アドミッションポリシーは掲げてあるが、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーもあると学生、保護者にもより分かりやすく伝わるのではないか。

【今後の対策】

将来的にはディプロマポリシー、カリキュラムポリシーも明確に提示していく必要があると考える。

*学修成果、学生支援

【課題】

より多くの歯科衛生士を社会で活躍させるために個々の特性を生かしキャリア形成をしていく必要がある。

【今後の対策】

在学中に面談を通して、学生の特性、強みを把握し正しいキャリア形成を促進させる。

また、卒業生の支援体制として、知識・技術等の「学び直し」を計画したいと考えている。

***教育環境**

【課題】

インターンシップ制度の取り組みが必要ではないか。
卒後の進路をイメージしやすいのではないかと考えるため。

【今後の対策】

臨床実習開始前に学生の興味がある分野（領域）を調査し実習施設を配置するなど配慮している。

***社会貢献・地域貢献**

【課題】

学生の校外の活動について（ボランティアなど）
保育園、小学校だけではなく、地域の歯科衛生の啓蒙活動をしていったらどうか

【今後の対策】

学校の教育資源や施設を利用した社会貢献は殆ど実施していない。学生
今後は地域住民への公開講座等を検討していく。